

体育・スポーツ経営学の未来を考える ～「人とスポーツとのかかわり」をめぐる新たな視点の模索～

期 日

2024年2月22（木）

18:00～20:00

参加方法

申込フォームより申請

参加申込締切日：2月19日（月）



URLまたはQRコードからお申し込みください。

<https://forms.gle/KrproslfkeGnj4vK7>

質の高い体育・スポーツ事業を提供していくためには、その事業の企画運営に携わる人々、あるいは協力してくれる人々を有効に組織化することが必要であると理解されてきた。他方、「VUCA時代」とも呼ばれる現代社会においては、人々とスポーツとのかかわり方、さらには体育・スポーツ事業の担い手となる組織の実態を説明するための「理論」にも、新たな視点を加味していくことが求められているものと思料される。第4回研究報告会では、「スポーツと価値共創」をキーワードとした研究を展開されている藤岡成美氏（法政大学）、「組織境界」という視点から組織現象に関わる新たな理論モデルの構築を目指されている樋口あゆみ氏（福岡大学）をお招きする。各分野・領域の動向やご自身の研究についてお話いただくことを通じて、これからの体育・スポーツ経営学が対峙すべき新たな理論的・実践的課題を検討・議論する機会としたい。

第一報告者：藤岡 成美 氏（法政大学法学部准教授）

「スポーツ場面における価値共創：概要と研究事例」

ビジネスに対する考え方が「サービス・ドミナント（S-D）ロジック」へ変化していく中で、近年「価値共創」の概念が注目されている。海外では価値共創を扱う研究が散見されるが、国内研究はごくわずかである。そこで本発表では、S-D ロジックおよび価値共創の概念、海外のスポーツマネジメント専門誌等に掲載された価値共創研究を概説する。また情報提供として、発表者が現在進める、価値共創に関する研究プロジェクトを紹介する。以上の内容をもとに、「価値共創とは何か」「実際のスポーツ場面における価値共創とはどのようなものか」、聴講者と発表者がともに価値共創に対する理解を深めるための機会としたい。

第二報告者：樋口 あゆみ 氏（福岡大学商学部講師）

「組織境界論と組織モデルの現在」

越境学習やオープンイノベーション、ユーザーイノベーションなど従来の組織境界の概念を超えるような組織の活動に注目が集まっている。ある組織内部に必要な財やアイデアをつくるか、あるいは外部から調達するかといった区別は古くは取引コスト論で考えられてきたが、近年は社会学理論を基礎としたシステム論から新たな境界論が提起されている。本発表では、組織境界をどのように捉えればいいのかという問いへの理論的仮説として、従来の前提と異なり組織境界の複数性を出発点として、こうした新しい現象を捉えて記述するための方法について考える。

司会：霜島 広樹（福岡大学） 山本 悦史（新潟医療福祉大学）

問い合わせ先

日本体育・スポーツ経営学会 第4回研究報告会 事務局
担当理事：山本 悦史（新潟医療福祉大学）、霜島 広樹（福岡大学）
E-mail jamps.office@gmail.com